

人形浄瑠璃

中川人形保存会

第十三回定期公演

入場
無料

演目

二人三番叟

傾城阿波鳴門

順礼歌の段

中川えびす舞

〔初演〕

令和8年6月7日(日)10:00開演 9:30開場

会場 中川文化センター大ホール

共催

中川人形保存会
中川村公民館

お問い合わせ

0265-88-1005 (中川村公民館)
090-9354-2164 (保存会事務局 齋藤)

長野県地域発元気づくり支援金活用事業

人形浄瑠璃

中川人形保存会 第13回定期公演 令和8年6月7日(日)

ににんさんばそう

『二人三番叟』

三番叟は天下太平、五穀豊穰を祈願する能の「翁」を、特に三番叟の部分に重点をおいて、義太夫に取り入れられたご祝儀曲です。田植えや種まきなどの農耕に由来する動きを賑やかな曲にのって軽快に踊ります。途中で疲れて休む等ユーモラスな場面もあります。



けいせいあわのなると

『傾城阿波鳴門』

じゅんれいうたのだん

『順礼歌の段』

十郎兵衛と妻のお弓は、徳島に娘のお鶴を残し盗賊の仲間になって盗まれた主君の刀を探しています。ある日お弓が針仕事をしていると、順礼をしながら両親を探しているという女の子が門口に立ちました。国なまり(方言)が気になり「国はどちら？」と尋ねると、「阿波の徳島で、父の名は十郎兵衛、母はお弓と申します」との答え。女の子は国許の祖母に預けた娘「お鶴」でした。すぐにでも母だと名乗り抱きしめたいお弓でしたが、今は役人に追われる盗賊の身。ここで親子だと名乗ればお鶴も捕らえられてしまうかもしれないと、「国で親の帰りを待ったほうがよい」とさどします。お鶴は、国での悲しい出来事や順礼中に怖かったことなどを訴え、「なにやら母様のように思われる。ここに置いてください。」と頼みます。しかしお弓は心を鬼にして、お鶴に旅のお金を渡して無理に返してしまいます。泣く泣く遠ざかっていくお鶴を見送って泣き崩れたお弓は、「今別れてはまた会うことはならぬ」と思い直し、後を追っていくのでした。

なかがわ まい

初演 『中川えびす舞』

恵比寿様は七福神の一柱で、日本古来の神様です。福耳、烏帽子をかぶり、破顔一笑「笑う門には福来る」。富貴繁盛をもたらす気さくで心優しい庶民の神様で、大元は兵庫県神戸市の西宮神社です。人形浄瑠璃のえびす舞の起源は西宮神社に深く関係しています。室町時代以降、西宮神社の近くに住んでいた傀儡師(人形遣い)たちが、諸国を回って恵比寿様のご神徳を広め人々を楽しませました。恵比寿信仰が今日のように全国に広まったのは人形遣いの存在が大きいと言われています。毎年1月には淡路島や阿波からえびす舞を伝える団体が西宮神社に参詣し、人形まわしを奉納しています。中川えびす舞は、「阿波えびす舞」のながれをくむ舞です。庄屋さんのお家に招かれたえびす様は、自らの誕生や成長を語ったのち、海に出て釣りを楽しまします。そして御神酒を飲み、五穀豊穰、商売繁盛、健康長寿などを祈るのでした。阿波(徳島)に伝わるえびす舞に中川独自のアレンジを加えた「中川えびす舞」をお楽しみください。



〈会場〉 中川文化センター大ホール

中川人形保存会 会員募集中

太夫・三味線・人形遣い・衣装大道具製作など

お問い合わせ

TEL090-9354-2164

(事務局 齋藤)

